

王子動物園をもっと楽しむためのフリーマガジン

Habataki

2025 SUMMER / AUTUMN

特集
知ろう、まもろう
ユキヒョウ

動物図鑑
ワオキツネザル

知ろう

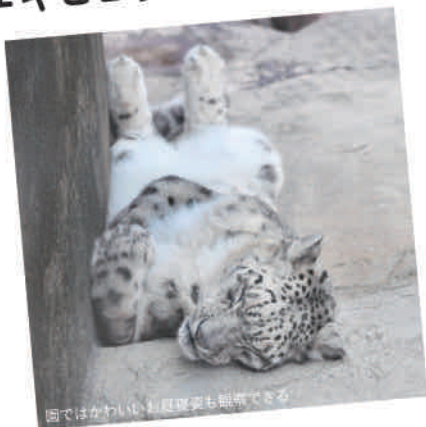
まもう

ユキヒョウ

知ろう

“虎の重牛”

ユキヒョウとは？



ヒマラヤから中央アジアの高山（標高2,000～6,000mあたり）に生息するユキヒョウは、世界で最も高い所で暮らすネコ科動物です。体長の75～90%にも及ぶ長い尻尾を持ち、不安定な岩場でバランスをとったり、体に巻いて寒さから身を守ることに使います。険しい山岳で狩りをするため跳躍力に優れ、雪山でも軽快に歩けるよう足の裏まで厚い毛で覆われているのも特徴です。他の大型ネコ科動物と比べても全体的に毛足が長く、当園ではジャガーやアムールヒョウなど他種との違いを比べて観察することができます。



ユッコ (××)

2009年に札幌市円山動物園で生まれ、多摩動物公園を経て2012年に来園。面長な顔立ちが特徴のほか、ファンの間ではおしとやかな佇まいが美しいと人気です。

まもう

国内外でおこなわれているユキヒョウ保護の取り組み



「ユッコ」(左)と「フブキ」(右)

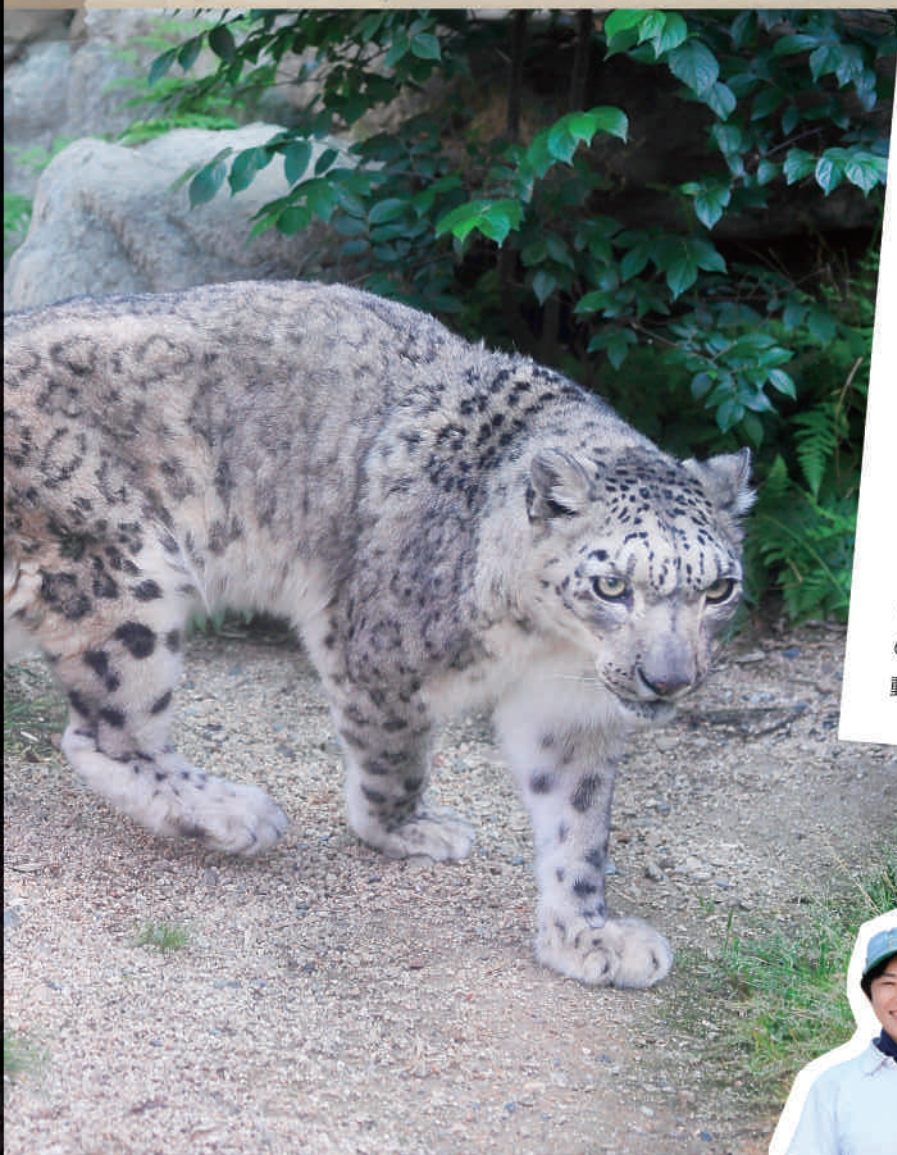
国内

繁殖のため全国の飼育園館が協力

ユキヒョウはIUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで絶滅の危険性が高い「VU：危急種」に分類され、地球温暖化といった気候変動による生息環境の急激な変化や家畜を襲う害獣としての駆除、毛皮を狙った密猟などの要因が考えられるものの詳細は不明です。日本では8動物園18頭（2024年時点）を飼育していますが、公益社団法人日本動物園水族館

協会生物多様性委員会の種別管理計画のもとペアを形成し、ブリーディングローン（繁殖のための動物貸借のこと）などの仕組みを用いて繁殖に取り組んでいます。その一環として、当園で飼育していた「フブキ」が2023年に転園（現在は札幌市円山動物園で飼育）。こうした国内での取り組みに加え、海外の動物園とも連携し保全活動が進められています。

高山帯に棲むユキヒョウは滅多に人目に触れないため、生態には多くの謎があり“幻の動物”と呼ばれています。王子動物園ではそんなユキヒョウの飼育・展示に積極的に取り組んできました。ぜひ多くの方にその魅力を知ってもらえ、ユキヒョウについて多角にご紹介します。



知ろう

日本初の4仔誕生も かなったペア



当園のユキヒョウ飼育は、1988年、「ユキエ」(メス)と「ザルツ」(オス)に始まります。2頭の相性は良く、1990年～1995年の間に11頭の仔を生みました。ユキヒョウは1産2～3仔のことが多いと言われていますが、日本初の4仔誕生もこの中に含まれています。以降、2004年に「ミュウ」(メス)、2006年に「ティアン」(オス)と「ユッコ」、2018年に「フブキ」(オス)が来園。いずれのペアも繁殖には至りませんでしたが、謎の多い生態の研究や絶滅の危機に瀕する現状を知ってもらうための活動に貢献しています。

食飼育担当から見たユキッ

少し年齢を重ねて、のんびり寝て過ごすことが増えた一方、夕方ごろになると持ち前の俊敏さを見せることがあります



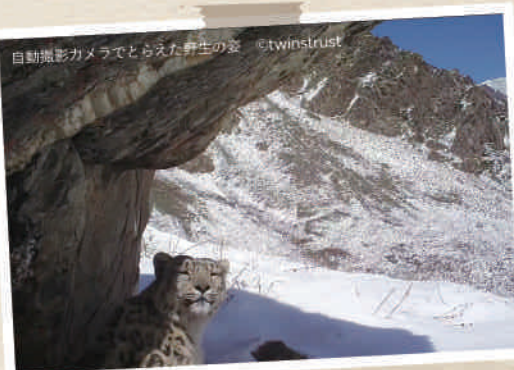
手作業で制作されたぬいぐるみ



国外 まもろうPROJECTユキヒョウ

生息国の一つであるキルギス共和国を中心に、現場でユキヒョウ研究を続ける京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の木下こづえ准教授と、双子の妹でコピーライターの木下さとみさんが2013年に立ち上げたプロジェクトでは、保全を通して日本と生息国をつなぐ働きかけを行っています。生態研究と並行して、現地の文化に関心を持っ

てもらえる活動を動物園と展開。山岳国・キルギスならではの羊毛やハチミツなどを使って作られた製品を国内の動物園で販売し、現地の地域活性化に役立てています。当園でも商品購入が可能で、互いに協力しながら野生のユキヒョウを取り巻く状況への理解と支援に努めています。



自動撮影カメラでとらえた野生の姿 ©twintrust



生息地
マダガスカル島南部

ワオキツネザル

英名: Ring-tailed Lemur	学名: <i>Lemur catta</i>
界: 動物界 Animalia	目: 霊長目 Primates
門: 脊索動物門 Chordata	科: キツネザル科 Lemuridae
綱: 哺乳綱 Mammalia	属: ワオキツネザル属 <i>Lemur</i> Linnaeus

体長: 約45cm
体重: 2.3~3.4kg
食性: 草食
繁殖形態: 胎生

アフリカのマダガスカル島と近隣の小島のみで生息。鼻先は尖り、耳も大きく、名前の通りキツネのような顔も特徴の一つです。5~25頭の群れで暮らし、主食は果実・葉・昆虫などです。

【じゃんぷ】

発達した後肢で約3mにも及ぶ跳躍



原猿類と呼ばれる原始的な霊長類であるワオキツネザルは、樹上性のキツネザルの中では地上で過ごす時間が長く、その際は尾を立て四肢を使って素早く移動します。後肢が発達しており、約3mにも及ぶ高い跳躍力を持っています。寒さに弱く、気温が低い時には体を温めるため四肢を広げて日光浴をする姿がよく知られ、当園でも肌寒い季節には頻繁にその様子が観察できます。



体よりも長い尾にある白黒の鮮やかな輪っか模様が特徴で、名前の由来になっています。

【におい】

尻尾につけて振りまきマーキング

サルには珍しく、群れではメスがオスを支配しています。オスは陰部や手首に臭腺を持ち、尾にこすりつけ振ることで匂いをまき、コミュニケーションや他のオスへの威嚇を行います。日本では多くの動物園で飼育されている一方、マダガスカル島のキツネザル類の96%が絶滅の危機に瀕し、ワオキツネザルもその1種です。

当園で暮らす4頭は性格が穏やかでキレイ好き。他の小ザル舎と比べてみても面白いかもしれませんね。

飼育担当から見た
ワオキツネザル



動物を語る

国境を越えて生きる動物・ユキヒョウ



1. 調査風景 ©Dale M Kikuchi 2. 環境教育風景 ©twinstrust & Snow Leopard Foundation in Kyrgyzstan 3. 羊毛グッズを作る女性 ©twinstrust

ロシア、モンゴル、中国、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、アフガニスタン、パキスタン、インド、ネパール、ブータンと聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか？ 大阪万博でこの中の国々の展示をご覧になった方もいるかもしれません。実は、これらの国々には共通点があります。それは、本誌で紹介しているユキヒョウの“生息国”になります。ユキヒョウは“世界で最も高いところにくらすネコ科動物”と称され、ヒマラヤや天山、アルタイ山脈などの山岳国境を生息地とし、上記12カ国の国境線に沿って分布しています。なかには戦争中の国々をまたぐ生息場所もあるのですが、ユキヒョウはパスポートなしで自由に行き来できます(すごいですよね)。



(株) 電通
コピーライター/
CMプランナー

木下 さとみ(左)

さまざまな企業の広告
コミュニケーションを担当
(<https://dentsu-ho.com/people/1677>)。
twinstrust副理事長。

京都大学大学院
アジア・アフリカ
地域研究研究科 准教授

木下 こづえ(右)

ユキヒョウなどの行動・
生理学研究に従事
(<https://www.kodzue-kinoshita.com/>)。
twinstrust理事長。

「ユキヒョウ」と聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか？ 動物園でユキヒョウの展示場の前にいると「しっぽが長い、毛がふさふさ、足裏が大きい」といった来園者の感想をよく耳にします。特に、王子動物園の円形猛獣舎では、ヒョウやジャガーと並んで展示されているため、その違いが一目瞭然です。では、生息国の人々はどんなイメージを抱いているのでしょうか？ アフガニスタンでは国獣に、ロシアではソチ五輪のキャラクターに選ばれたほか、各国の寺院やランドマークにも描かれ「象徴種」として扱われている様子を目にします。一方で、多くの生息国にはユキヒョウを常時展示する動物園がなく、あったとしても家畜などを襲った個体が一時的に収容される程度です。そのため、ユキヒョウを直接目にするのは、村にやって来て家畜を襲う時。牧畜が生活の中心である現地の人々にとっては、ユキヒョウは“害獣”として見られることも多いのです。ユキヒョウが絶滅の危機に瀕していたとしても、家畜を襲われたことに対する報復心から、ユキヒョウを殺す例が各地で報告されており、保全と生計の両立に苦しむ現実があります。

この状況を打破するには、現地の

人々の生計を支えると共に、環境教育を進めることが重要です。そして、消費大国・日本に暮らす私たちもその背景を知ることがとても大切です。私は、動物園(日本)と生息国(キルギスなど)の両方でユキヒョウを研究させていただくなかで、ユキヒョウの保全のためには両者をつなぐ活動が必要と考え、双子の妹(広告会社勤務)と共にNPO団体「twinstrust」(<https://www.yukihyo.jp/>)を立ち上げました。キルギスで古くから親しまれてきた羊毛商品やハチミツに着目し、ユキヒョウをモチーフにしたデザインでそれら商品を生産いただき、日本の動物園(王子動物園を含む8園館)で販売いただいています。その収益は、現地女性の経済支援に充て、子どもたちの環境教育用の望遠鏡やワゴンカーの購入に役立てています。

世界各地で情勢が不安定な今、平和を築くためには、まずは他国を知ることがとても大切です。動物園では世界の多様な動物が展示されています。ユキヒョウが“ノーパスポート・ノーボーダー”で生きているように、ぜひ動物園の動物たちを通じてさまざまな生息国にも想いを馳せていただければ幸いです。

神戸市とリガ市の 友好記念の特別展

1974年6月18日に神戸市とラトビア共和国リガ市が姉妹都市提携を結んでから満50年を祝い、10月26日～翌年3月31日まで『「リガ・神戸」姉妹都市50周年特別展』を開催。動物交流の歴史などを展示し、二都市の絆を改めて感じることができました。



ホッキョクグマの 講演会を開催

「国際ホッキョクグマの日」にちなみ、2月24日に講演会を開催。当園飼育のホッキョクグマ「ゆめ」(メス・3歳)の出生地・旭川市旭山動物園から提供された動画も上映しました。絶滅の危機に瀕するホッキョクグマの保全に理解を深められました。



OJI ZOO NEWS 20

フクロテナガザルの 「テツジイ」逝く

2月25日、フクロテナガザルの「テツジイ」(オス・推定50～60歳)が肝臓の腫瘍のために亡くなりました。1980年の来園以来、縄張りを守りながら、共に過ごすメスの「エヘ」(推定50～60歳)を常に気に掛ける、優しい性格で親しまれていました。



動物たちの暮らしを 守る取り組みを講演

3月9日、15歳以上を対象に『大人のための動物園講座』を行いました。飼育員や獣医師が登壇し、後肢不全麻痺のアカカンガルーへのケアや、歩行困難なガチョウに対するマッサージなどを例に挙げ、当園での動物福祉への取り組みなどを紹介しました。





コアラの「桜希」と母の「オウカ（桜花）」



シタツンガの「ミツハ」

コアラとシタツンガ 新たな仲間が誕生

昨年6月に誕生したコアラの赤ちゃん(オス)の名前が、来園者の投票により「オウキ(桜希)」に決定しました。また、3月28日にはシタツンガの「ギーター(オス)」と「コイト(メス)」の間にも「ミツハ(メス)」が誕生。どちらもすくすく成長しています。



ワークショップなど 多角的にリスを知る

3月20日、講演会『動物園で学ぶリスの世界』を開催。当園飼育のリスが食べたクルミの殻などを使い、キーホルダーを作るワークショップや、立命館大学OIC総合研究機構専門研究員理学博士の高畑優先生の講演を聞くことができました。

24 WINTER-SPRING



白と黒の花のシールを貼るとタンタンの姿が浮かび上がる



水道筋商店街でのバナー

タンタン美術作品の展示

神戸各地に広がる タンタンへの思い

2024年に28歳で死亡したジャイアントパンダの「タンタン」(メス)を思い、命日である3月31日に神戸各地で追悼事業を実施。園内でもシールを貼ってタンタンの姿を作り上げる来園者参加型イベントを実施し、生涯を振り返った記念誌を配布しました。



今年も盛況だった 神戸の春の風物詩

王子動物園の春の恒例イベント『夜桜通り抜け』を4月3〜5日に実施しました。入口からゾウ舎前、旧ハンター住宅前までの約350mの間に観覧通路を設置。約100本ものソメイヨシノが美しくライトアップされ、多くの方々に楽しんでいただきました。

神戸市立王子動物園

開園時間

3月～10月 午前9:00～午後5:00

11月～2月 午前9:00～午後4:30

※ただし、入園時間は開園の30分前まで。

休園日

毎週水曜日（祝日と重なる場合は開園）

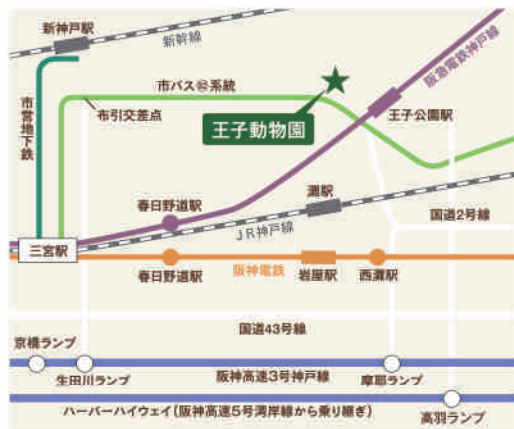
年末12月29日～1月1日

※春休み、夏休み期間中は臨時開園する場合があります。

料金案内

	個人	団体			年間パスポート		
大人（高校生以上） ※神戸市在住、または在学の高校生は無料。 学生証と公的書類をお持ちください。	600円	30～99人	100～299人	300人以上	金額	有効期間	発行場所
		540円	480円	420円	3,000円	年間パスポート 作成日より1年間	王子動物園 入園ゲート受付
中学生・小学生・幼児 神戸市在住の65歳以上の方 障害者の方	無料				※ご希望の方は、入園ゲートで年間パスポート申込書に必要事項を記載し、現金を添えてお申し込みください。 ※王子動物園に入園の際は、必ず係員に提示してください。 ※申込者（年間パスポートに記載のある氏名の方）以外は使用できません。違反が判明した場合は年間パスポートを返還していただきます。 ※本券の再発行はいたしません。 ※写真欄はご本人の顔写真を貼りください。		
	※神戸市にお住まいの65歳以上の方は、敬老手帳・運転免許証等の住所・氏名・生年月日がわかるものをお持ちください。 また、障害者の方は障害者手帳等をお持ちください。						

アクセス



□ 電車

- 阪急「王子公園」駅より西へ徒歩3分
- JR「灘」駅より北へ徒歩5分
- 阪神「岩屋」駅より北へ徒歩10分
- 神戸市バス92系統「王子動物園前」バス停下車すぐ
- 新幹線「新神戸」駅よりタクシー10分、または「布引」バス停より市バス92系統

□ 車

- 阪神高速3号神戸線 摩耶ランプを降りて、北へ「西灘」交差点を左折10分
- 生田川ランプを降りて、北へ「布引」交差点を右折15分
- 阪神高速5号湾岸線 住吉浜ランプを降りて、「高羽」交差点右折、「弓木4」交差点を左折15分

□ 駐車場

王子公園駐車場 料金 (30分ごとの時間制)			
乗用車	～2時間	2～4時間	4時間～
	150円	100円	50円
バス	500円		
※ただし、3,000円を上限とします。 ※土曜・日曜・祝日はバスの駐車ができません。			

三宮・花隈駐車場の利用割引 市立三宮駐車場・市立花隈駐車場を利用し、公共交通機関でご来園された場合、駐車料金を3時間まで割引します。駐車券を動物園まで持参し、管理事務所で提示してください。 ※「三宮中央通り駐車場」の利用割引はできません。

「動物サポーター」大募集！！

王子動物園では、平成17年より「動物サポーター」を募集しています。
この制度は、動物園を支援していただける企業・団体などや個人の方からご寄付いただき、動物たちのエサ代や動物舎の整備などの運営費用に充てるといったものです。
動物園をより身近に感じていただき、みなさまに支えられながら、動物園の活性化を進めていくことを目的としています。

□ 法人サポーター

対象は企業・団体などで、年単位でご寄付をお願いしています。寄付金額は対象動物ごとに異なり、動物舎の前などに、企業・団体の名称を記載したプレートを設置します。
なお、プレートに宣伝広告等は記載できません。詳しくは動物園にお問い合わせください。

□ 個人サポーター

対象は個人の方で、年単位でのご寄付を募っております。なお、寄付金額は右の表のとおりです。寄付はふると納税の対象となるため、税金の控除が受けられます。ご寄付をいただいた方については、お名前を園内の支援者一覧に掲示（※1）し、年間パスポートや機関誌などを進呈します（※2）。

※1 希望される方のみ

※2 神戸市内在住の方、7,000円寄付の方、中学生以下の方には、年間パスポートは進呈できません

年間サポート料金	
大人	7,000円
	10,000円／一口
中学生以下	1,000円／一口

〒657-0838 神戸市灘区王子町3-1 TEL 078-861-5624 HP <https://www.kobe-ojizoo.jp/>

入園時の注意 ※動物にいたずらをしたり、食べ物を与えないでください。 ※イヌやネコなど、ペットを連れての入園はできません。 ※ボールなどの遊具の持込はできません。
※園内での飲酒は禁止されています。 ※園内は全面禁煙です。

氏名又は名称：神戸市長 久元直道 事業所の名称：神戸市立王子動物園 事業所の所在地：神戸市灘区王子町3-1

第一種動物取扱業の種別：展示…登録番号：神保第0206030号 登録年月日：平成19年3月29日

貸出…登録番号：神保第0216008号 登録年月日：平成29年3月9日 保管…登録番号：神保第0216009号 登録年月日：平成29年3月9日

販売…登録番号：神保第0216010号 登録年月日：平成29年3月9日 有効期限の末日：令和9年3月8日 動物取扱責任者：植田達志

2025年7月発行 Habataki 2025 SUMMER / AUTUMN

Publishment：神戸市立王子動物園 Produce：株式会社神戸新聞総合印刷 Oji Zoo Logo Design：YUKO ARAKI(神戸芸術工科大学)
Photograph：山内 城司(Voyage photo&Atelier salon) Art direction & Design：cursor inc. Edit：後藤 愛 Write：池田 久美

協力：公益財団法人 神戸市公園緑化協会
Kobe Parks and Greenery Association